

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201726		
法人名	有限会社アップルホーム		
事業所名	グループホーム石川の家		
所在地	青森県弘前市大字石川字岸田152		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>花卉、野菜、果物の栽培や収穫が楽しめ、1年を通じて四季を感じることができます。静閑な場所にあり、天気の良い日は岩木山もきれいに見えます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「地域社会とのつながりを大切に、その人らしく楽しく幸せに暮らしていけるように支援します」というホーム独自理念は職員協議の下に作成しており、地域密着型サービスの役割を十分に理解して、理念の実現に向けて取り組んでいる。 また、新人職員の教育・育成のシステムを構築し、資格取得への積極的な応援体制等、職員の資質を高めることに力を入れ、利用者へのより良いサービス提供へとつなげている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型施設である事を理解した上で、それを踏まえた理念を作り、玄関、各ユニットホールに提示して共有、実践している。入社時の内部研修で地域密着型の意義を説明している。	「地域社会とのつながりを大切に、その人らしく楽しく幸せに暮らしていけるように支援します」という理念を職員が協議して作成しており、地域密着型サービスの役割や理念の実行について、入社時研修や棟会議で説明し、理解を深めている。また、理念はホーム玄関や食堂等、誰もが目に付く場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム便りに来園の呼び掛けを載せ、3ヶ月に1回町内会に配布し、いつでも気軽に見学等をしていただけるように努めている。運営推進会議にも参加していただいている。	ホーム代表者が地元の方なので、町内会等の会合がある時にはホームの紹介をしたり、いつでも立ち寄ってもらえるように働きかけている。また、3ヶ月に1回広報紙を発行し、町内会に配布して、ホームへの理解を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りにて、認知症について説明をする等、理解を深めていただけるようにしている。他者からの紹介で、個人で相談に来られる方も増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や活動報告、外部評価の報告等を行い、第三者の方々から意見をいただいている。会議は年6回開催し、職員へ会議録を回覧し、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、毎回メンバーを変えて開催しており、参加者の目線で色々な意見をもらっている。いただいた意見はホーム運営の向上や、利用者へのより良いケアサービスとなるよう、目標達成計画を立てて実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡は必要時に行い、相互に行き来しており、相談にのっていただいている。運営推進会議にも参加していただいている。	運営推進会議には、市担当者は年に1~2回、地域包括支援センター職員は毎回参加しており、困難ケースやホームの運営上の問題等がある際は、気軽に相談できる関係にある。また、自己評価・外部評価結果についても報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束をしないという事で取り組んでおり、重要事項説明書に記載して、家族にも説明をしている。それと同時に、身体拘束をしないリスクについても説明している。また、研修等で身体拘束について理解を深めている。	身体拘束をしないケアを前提としており、ホーム独自のマニュアルを作成している。外部及び内部研修を行い、身体拘束のないケアを徹底しているが、やむを得ず行う際に備えて記録様式を整備しており、家族への説明と同意書を得る体制も整えている。利用者が不穏の際は付き添ったり、散歩に出掛ける等により、寄り添って会話をする等の支援をしている。また、無断外出に備えて、近隣から協力を得られる体制を構築している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加して、虐待の具体例を理解し、防止を徹底している。復命書を回覧し、全員の理解に役立てている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、制度の理解に努めている。復命書を回覧し、職員全員の理解に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず重要事項、契約の説明を行い、疑問点や家族の要望を受け入れている。その上で、理解、納得を得てから契約書等に署名をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者とのコミュニケーションの中で、不満等の訴えが出しやすいようにしている。家族へは面会時や電話等で話をする機会を設けている他、運営推進会議にも参加していただけるよう声掛けしている。一つひとつの問題に適切に対応している。	利用者や家族等が意見を出しやすい雰囲気づくりを心掛けている。意見を上手く表現出来ない利用者については状態観察を行い、職員の気付きを大切にしている。また、苦情受付窓口を玄関に掲示し、重要事項説明書への記載もしている他、玄関に意見箱を設置している。出された意見・苦情についてはすぐに話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングや申し送りノートを活用し、管理者と職員の意見交換を行っている。利用者への対応の統一を図っている。	ホームの運営方法や新規利用者の情報の他、利用者のケアに関する事等については、棟会議で話題を提供した上で職員の意見を聞き、ケアに反映させている。また、利用者に与える影響を考慮し、職員の異動は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自主的な研修参加や資格取得への努力を促し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修への参加を促し、参加する事で、介護の質の向上や精神面の強化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加入し、情報収集に役立てている。 研修等に参加し、他事業所職員との交流を図り、相談等がしやすい関係を築いている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人と面談し、思いを把握する事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず家族と面談し、思いやニーズ、不安等を把握して、様々な問題を曖昧にしないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々のニーズをしっかりと見極め、対応出来る事、出来ない事を把握し、出来ない事に関しては他のサービスの情報提供を行い、利用者、家族が納得出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションの中で信頼関係を築き、共同生活の中で共に支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、利用者のニーズの違いが生じる場合、話し合いの場を設け、意見の調整を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人がホームに面会に来てくれる。 電話がいつでも出来るよう支援しており、変わらない関係を継続出来ている。	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所は、入居時アセスメントにて把握している他、日常の関わりの中からも把握している。利用者が友人との電話や会う事を希望した場合、ホームで連絡を取る等の支援をしている。また、月1回外出行事を企画し、買い物等、家族の協力を得ながら希望の場所に行けるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し、孤独やトラブルを未然に防ぐよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、今後も変わらず相談等に応じる事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や日常の様子、家族の情報から判断して、利用者の立場で検討し、希望に応えられるよう努めている。	職員は、利用者の思いや希望を日々の何気ない会話から、または家族から情報を聞く等して、把握するように努めている。利用者の意向等が十分に把握できない場合には全職員で観察し、気付きを話し合い、把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでのサービス利用状況等を、本人や家族等から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックし、心身の状態把握をしている。 生活リズムが確実に把握出来るようケース記録に詳しく記載し、健康に暮らせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	棟会議や担当者会議で意見交換や気付きを話し合っている。 利用者に変化が見られた時は、随時計画の見直しを行っている。 計画書について、家族、または利用者を確認し、納得していただいてから署名を得ている。	介護計画作成時には、利用者がその人らしく暮らし続けることが出来るよう、利用者・家族の意見を聞く他、職員の気付きも反映させている。見直しは3ヶ月毎としており、その際はモニタリング・再アセスメントを行っている。また、利用者の状態変化時等は随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録を毎日記入し、介護計画や個別ケア、状況の変化の把握に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は家族の付き添いが困難であれば、同行や送迎の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、駐在所の巡査等から理解と協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族と相談しながら主治医の選択をし、かかりつけ医への受診や送迎にも対応している。 かかりつけ医の往診も行っている。	利用者の入居前の受療状況はアセスメントにて把握しており、入居後も希望する医療機関を受診出来るよう、家族の協力を得ながら支援をしている。受診結果は、家族が受診付き添いした際は情報をもらう等して、共有化が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携体制を整えており、申し送り用紙を活用し、相談、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を必ず行っており、入院中は家族や病院への状態確認をしている。 当施設への紹介等も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は重要事項説明書に載せ、家族に説明、納得していただいた上で署名、捺印を得ている。	重度化・終末期の対応を行うこととしており、指針も作成され、対応時には、出来る事・不安な事等について、職員研修で話し合うこととしている。入居の際に利用者・家族には説明し、意向を確認している他、状態変化時には再度意向を確認し、医療機関と連携を取りながら支援していく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生マニュアル等を作成し、内部研修等で周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている(日中、夜間想定)。緊急連絡網に地域の協力者の名前を載せさせていただき、事故発生時、連絡をさせていただいている。災害時の必要物品も備蓄している。	年2回避難訓練を実施しており、内1回は夜間を想定して実施している。訓練計画書を作成し、消防署立ち合いで利用者・職員と一緒に訓練をしている。緊急時連絡網には近隣住民も入っており、非常災害時の協力体制を整えている。また、備蓄は3日分用意している他、ホーム内の避難路・設備点検も定期的に行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの自尊心を傷つけないよう、プライバシーに配慮した声掛けをしている。	利用者の話をよく傾聴し、否定や拒否をしていない。利用者の個人記録等は来訪者の目に触れない場所に保管している他、職員は入社時に守秘義務や個人情報の取り扱いについて説明を受け、同意書に記名捺印し、職務を徹底している。また、利用者への声掛け等は常に職員間で確認しており、気になる時は改善に向けて話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物、外食等、利用者の自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決まっているが、個人のペースや希望を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に着用する衣類を一緒に選んだり、衣類の乱れが見られた時はさりげなく声掛けを行い、直している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫したものを使用し、利用者の状態に合わせて提供している。 おしぼりの準備等、個人の役割として行っていただいている。	カロリーや栄養バランスを考慮しながら、利用者の希望や季節感を取り入れた献立としており、苦手な物には代替食で対応している。調理や下ごしらえ等、利用者の出来る範囲で職員と一緒に取り組んでおり、昼食は職員も同席し、会話を楽しみながら、食べこぼし等にもさりげないサポートを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録をし、確保出来ていない時は申し送り、観察している。 嚥下の状態に合わせてたり、希望により、刻みやお粥を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛け、誘導、介助をしている。 拒否された利用者には時間を置いて、タイミングを見ながら声掛けをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、トイレでの排泄を促すことで、失禁や安易なおむつ類の使用を予防している。 訴え時は速やかに誘導し、声掛けはプライバシーに配慮している。	利用者一人ひとりの排泄をチェック表に記録して把握しており、個々に合わせた排泄支援を行っている。紙おむつからパットへの移行等が少しでも出来るよう、ケアサービスに努めている。また、排泄の失敗があった際は利用者の羞恥心に配慮し、周りに気付かれないように声掛けし、支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況をチェックし、歩行運動を促したり、水分の摂取を促す等により、便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	日曜日以外は各ユニット交互に入浴日としており、希望があれば、毎日入浴出来るようにしている。	利用者の入浴習慣や好みは、入居時アセスメントにて把握している他、日々のケアの中から意向を汲み取るよう努めている。2つのユニットで違う入浴日を設けているため、利用者の意向に合わせて支援出来る体制となっている。入浴を拒否される場合は声掛けやタイミング、職員を変える等の工夫をしている。また、入浴が利用者の負担にならないよう、習慣に配慮しながらも適切な支援となるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の出来事や心身の状態に応じて、柔軟に休息を取り入れている。 入浴日以外は足浴等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ケースにて管理し、職員は用法等を把握している。 変更時は申し送りノートで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力量や性格を把握し、軽作業の種類を分けたり、勧めたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に合わせて、ホーム周辺の散歩等をしている。 外出行事の際は、家族にも積極的に声掛けし、参加を促している。	利用者の希望を取り入れた外出が出来るよう、買い物や外食等、家族の協力も得ながら実施している。外出時には、体調によっては車いすを使用する等、安全を確保した上で楽しんでもらえるよう支援している。また、冬期間は廊下歩行や体操を取り入れ、気分転換につなげている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量に応じ、可能な場合は所持金を管理して、買い物時は欲しい物を選び、支払いまでしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信は自由に行っている。 電話や手紙の際、支援が必要な利用者には職員がお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ汚染時は直後に掃除をし、不快感のないようにしている。 ホールには季節感を取り入れた装飾をし、四季を感じていただいている。	共用空間はキッチン一体型となっており、利用者は家庭にいるような雰囲気の中で過ごしている。また、感染症等に罹患しないよう、ホーム内の温・湿度は毎日測定・記録し、乾燥時には洗濯物や加湿器で対応する等、工夫をしている。ホーム内は季節感を取り入れた飾り付けとなっている他、窓からの眺めで季節を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにある数人用ソファや自席で思い思いに過ごし、利用者同士や職員を交えて会話をされたり、テレビ視聴をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持って来てもらえるよう、家族に働きかけをしている。 一人ひとりに合った居室づくりをしている。	入居時前から使用していたソファやタンス等の他、位牌を持ちこむ等しており、その人らしい居室づくりに取り組んでいる。また、持ち込みが少ない場合でも、職員が利用者の意向を確認し、利用者が生活しやすい空間づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者本人が出来る事は自分でしていただき、手すりやバリアフリー等、安全に活動出来るように配慮している。		